



カレブ通信

2011 年 10 月 22 日
第 9 号

1 各地カレブの会の報告と予定

内容

1 カレブの会の報告と予定

2 メンバーからの報告

山本ストーリーの反響

3 カレブ ストーリー 1

佐藤やす子さん

4 カレブ ストーリー 2

スタン・ラングさん

● 東京カレブの会

10 月 28 日 (金) OCC 402 号室 午後 6 時から 8 時半

テーマ「人に寄り添う」について伊藤博康さんのお話しと分かち合い

特別企画：12 月 9 日 (金) OCC402 号室で 午後 6 時から 8 時半まで
「カレブの会、5 年間を振り返って」と題して、御霊の導きを仰ぎ見ながら、
みなさんで感謝と評価、そしてこれからの方向を自由に話したいと思っ
ます。よろしくお願いします。

● 宇都宮カレブの会

11 月 5 日 (土) テーマ「永遠のいのちについて (4)」

● 宇大カレブの会

10 月 29 日 (土) テーマ「福音のためのインサイダー」

● 仙台カレブの会

10 月 22 日 (土) 仙台にて

2 メンバーからの報告と祈り

ストーリーの反響

わたしの戒めを保ち、
それを守る人は、
わたしを愛する人です。
わたしを愛する人は
わたしの父に
愛され、
わたしもその人を愛し、
わたし自身を
彼に現わします。

ヨハネ 14 : 21

山本文夫 さんの「いのちあふれる第二の人生」が「百万人の福音」9 月号に掲載され、多くの反響がありました。これを企画された編集部には、退職前後の大勢の読者から強い関心が寄せられ、「老後の生きた伝道活動の参考例を求めているし」と捉え、こうした企画を継続することを考えているようです。また、リタイア後のクリスチャンが生き活きと天国への階段を上っている姿に求道者が感銘を受け、受洗を決意したという例もあったそうです。影響は、思いがけないところにも広がっているようです。

ある牧師 さんは「今の伝道というのはこういう形が求められていると思うのです。伝道しよう、導こうという気持ちだけではどうにもならなくて、なにより地域に根ざしたコミュニティの中にクリスチャンがとけ込み入り込む、友だちになるということが現代において伝道になるのです。」とコメントしておられるとのこと。

改めて、人々が第二の人生のモデルなるものを求めていると感じさせられました。それが多様であればあるだけ、多様な人々の生き方にヒントを与え、主に栄光を帰するのではないかと思います。(小川)

3 カレブ ストーリー（1）

「カレブの会と私」

佐藤やす子



私は建築士として、これまで日々忙しく働いていましたが、近年体調を崩して仕事を休むことになりました。そのような毎日の中、将来を模索していたところカレブの会を知りました。カレブの会に参加して早いもので三年目になります。この度「何か書いてみませんか」と勧められました。困りました。実は、友人への手紙やハガキ以外はここ何十年も文章らしいものは書いていないのです。

さて、どう書き出していいのか、まず、何を書くのか、等々日頃いかに頭の中が整理されていないかに気付かされました。礼拝の時、カレブの集まりの時、聖書の学びの時、テレビ、雑誌を毎日見たり、聞いたり、読んだりしていますが、日頃思う事を要領よくまとめるのはむずかしいですね。そんなことを思いながら、「カレブの会を通して培われつつあること」を書いてみようと思います。

会に参加したてのころ「夢」って何？ 「夢」ってそれぞれなんだよね。どう支え合うの？ つかみたくてもつかみきれないもどかしさがありましたが、回を重ねるごとに、この「夢」が表されてきているから不思議です。

まず、カレブの会は、日常以外の事でここに集められた、という不思議さを内在させていると思います。「夢の実現を支え合うために」というモットーがありますが、会に参加したてのころ「夢」って何？ 「夢」ってそれぞれなんだよね。どう支え合うの？

つかみたくてもつかみきれないもどかしさがありましたが、回を重ねていくごとに、この「夢」が表されてきているから不思議です。

またそれは、ただ単に各個の「夢」というだけでなく、私たちにとって一番肝心なもの、「永遠のいのち」、「永遠の救い」（しかも、私がその中にいるなんて・・・。主の御心に感謝です。）を会に参加されている求道中の方々がいただくことを含め、これからどう御霊さまは導いてくださるのかわくわくしているのです。

この会に集まる方々が毎回それぞれのこれまでの試練、艱難、悲喜こもごもを話してくださいます。私たちは、イエスさまの助けをいただきながら、それらのものを後にして、今ただ前のものに向かって進んでいます。主なる神様は、会のひとりひとりをよく知っておられ、また求める人々が「永遠のいのち」、「永遠の救い」をいただくために必要な時間をくださっています。私はその時が来るのがますます楽しみとなっています。

私たちは年老いてもいつも変革されながら、実を实らせ、みずみずしくおい茂り（詩編 92:14）、新しい歌を主に向かって歌いつつ（詩編 33:3）歩んでいます。

佐藤やす子

*宇都宮カレブの会の特徴は、家族的で、クリスチャンも求道中の方もおられます。テーマはみなさんで決め、お話はカレブのメンバーが担当します。さまざまな賜物を持っておられる方々が、賜物を生かし、互いに支え合っているのも特徴のひとつです。



佐藤やす子さんの「シャローム喫茶」。やす子さんが入れて下さるコーヒーはとてもおいしいです！

4 カレブ ストーリー (2)

日本人を愛し続ける私のビジョン

スタン・ラング



「なぜ、毎年日本に来るのですか」と、多くの友人や家族がこの質問をします。神は巧妙なやり方で導く方です。初めて日本を訪れた時、私は日本人とある種のつながりを感じました。愛、尊敬、絆、それらを私が会う日本人から、私と共に働いた人々からも感じました。ですからすぐに平安が感じられ、アイデアを交換したり、互いに教え合ったり、学び合うことが、何の緊張もなくできました。平安あるのみでした。

しかし、口には出さないけれど、何か心から叫んでいるニーズを感じました。彼らが物質的には満たされているけれども、霊的には飢餓状態であることを感じました。心の痛み、体の問題、人間関係の問題、感情などを人に分かち合ったり、オープンにするようなことはありませんでした。日本人は、アルコールの消費は多く、喫煙者も多いようでした。家族との時間は後回しにされ、生活は仕事に支配されているようでした。親しい関係というものがないか、あるいは、それは表現されませんでした。宗教についての話し合いや知識もほとんどありませんでした。神道はある程度の理解はあったようですし、仏教も少しではあるが理解されていました。ユダヤ教やキリスト教の神に関してはほとんど理解されていませんでした。

2000 年、私は退職しました。私は神を愛していましたし、日本人と私が会った日本人を愛していましたので、日本へもどり、イエス・キリストと父なる神、聖霊を彼らにお伝えしなければいけないと感じました。

日本人は彼らが持つ強い特性にゆえに、また、イエス・キリストにある真理や、聖霊に対する応答の良さにゆえに、将来、世界中の人々の間で、クリスチャンのリーダーになるであろうと私は予測します。私は日本人が、キリストを神と信じる障害は小さく、まず、各世代の婦人たち、次に 20~40 代の男性、大学生の間でその障害は取り除かれ、彼らは、みことばに根ざし、キリストの愛を経験しながら、互いを愛する愛へと成長してゆくと思われま

す。このチャレンジはすべての男性、ことにビジネス界、政界の男性にかかっているように思われます。男性がその心のニーズに気づき、またそれをオープンにする時に得られるものに気づき始める時、霊的きよめがすばらしい方法で行われると思います。このことが起こる可能性があるところは、まず牧師だと思ひます。彼ら自身が先ずオープンになり、彼らの心の痛みや問題をオープンにし、みことばを問題解決に適用するというを教会に示すことが大切だと思います。このことによって人々は、聖書を日々の生活の中で用いる方法を知るようになります。このようなことは日常生活に神道を伝統的に取り入れている彼らにとって自然なことと思ひます。私の祈りの中心は、神と日本の人々が今も将来も神の子としてその絆を強めることです。神は日本人をよく知っておられます。日本人が神を知ることを待っておられます。

スタン・ラング

スタン・ランさんの職歴

●1965~1982 ヒューレット パーカー入社、やがて製品開発部門責任者となる

●1985~1990 全世界のセールス・マネージャーへ

●1990~1995 アメリカから東京ビジネスセンターから年 3 回訪問 日本研究に集中、日本について学ぶ

●1995~2000 神戸で日本人と市場開発

日本人は彼らが持つ強い特性にゆえに、また、イエス・キリストにある真理や、聖霊に対する応答の良さにゆえに、将来、世界中の人々の間で、クリスチャンのリーダーになるであろうと私は予測します。私は日本人が、キリストを神と信じる障害は小さく、まず、各世代の婦人たち、次に 20~40 代の男性、大学生の間でその障害は取り除かれ、・・・

スタンさんは現在コロラドスプリングに在住。
カレブの会のメンバー
お問い合わせ先メール：

gna1rs@comcast.net

